進路室の窓から No.5 2026/5/15

神戸大学について考えてみる

ご存じのように、神戸大学はいわゆる旧帝国大学に次ぐ総合大学として考えられており、本校でも志望・受験・入学する人が毎年います。とはいえ、神戸大学がどういった大学なのか、考えてみたことはあるでしょうか？今回はこの神戸大学について考えてみます。毎回の話ですが、だから神戸大学がいい大学だ、とか、神戸大学を目指そう、という話ではなく、あくまでも**大学を見る際に、こういった視点がありますよ**、というサンプルだと思ってください。

大学について考えてみることの意味

伝統ある大学には、それぞれの大学がもつルーツや歴史があり、その影響は非常に大きいです。例えば**東京大学**や**京都大学**は、国家や学術の中心として育ってきた大学です。また、各地の大学には特色や得意分野があります。**北海道大学**だと**「開拓・自然」**、**九州大学**だと**「資源・重工業」**、**東北大学**だと**「材料・防災」**というイメージがあります。では、神戸大学はどんな大学でしょうか。**神戸大学**は、**「国際港湾都市の実務から育った大学」**だと言えるでしょう。以下、簡単に見ていきましょう。

神戸という都市について

1868年（明治元年）、日米修好通商条約(1858)により、兵庫港（神戸港）が開港されました（日本史！）。その結果、神戸には外国商館・銀行・保険会社・海運会社・商社が集まることになります。神戸は「外国と商売するための都市」だったのです。

神戸大学のルーツ

神戸大学の核となったのは1902年に設立された**神戸高等商業学校**です（のちに**神戸商業大学**→神戸大学）。これは現在の**経済学部・経営学部・法学部**の源流となります。当時の日本は「富国強兵」「産業育成」「輸出拡大」をすすめなければならなかったのですが、そのための人材が足りませんでした。そこで作られたのが**東京高等商業学校**（のちの**一橋大学**）や、**神戸高等商業学校**でした。ここでは「国際貿易」「商業実務」「海外経済」「海運」「会計」「保険」の知識やスキルを持った人材の養成が行われたのです。

いわゆる帝国大学で求められていたものは「国家官僚」「純粋学問」「国家研究」といったものでしたが、神戸大学で求められていたものは「**現場で使える経済学**」でした。特に興味深いのは、旧帝国大学に対して、神戸大学は「**経営学**」に強みがある大学だということです（一橋大学も同様ですね）。神戸には商社・船会社・外資・銀行・保険会社が多く立ち並び、会社運営のための会計学・経営学・商学に対するニーズが多かったことがその背景にあります。

海洋政策科学部

神戸大学には、**神戸商船大学**（もともとは1917年設立の私立川崎商船学校。その後、官立神戸高等商船学校等を経る）をルーツとする**海洋政策科学部**があります。国際港湾都市である神戸では、航海士・機関士・海事技術者の養成が必要だったためです。本来は技術者養成を目的とした学校ではありましたが、現在の海洋政策科学部は、**「国際物流」「海洋政策」「海上安全」「環境」**など、幅広い分野を学べる文理融合の学際領域を持つ学部になっているのが興味深いですね。

海洋政策は今や注目の学問です。どの国から、どの船で、どうやって必要な資源を運んでくるのか、そしてそれが我々の生活にどう影響してくるのか、毎日のニュースにも関わる話ですね。

理工系分野

理工系分野も神戸という都市のあり方の影響を受けています。阪神工業地帯である神戸周辺では、**川崎重工・神戸製鋼・三菱重工**など、造船・鉄鋼関係の重工業が発展していました。これを背景に1921年、**神戸高等工業学校**が設立されます。これが**神戸大学工学部**の前身となります。この学校では旧帝大のような純粋工学ではなく、「阪神工業地帯を支える技術者学校」という役割を求められていたということが重要です。そのため、神戸大学でも、**機械工学・電気電子・化学工学**が発展しました。また、神戸の特徴である**造船業**は、**機械・流体・材料・電気・制御**の総合産業であり、これらの研究も、神戸大学の特徴と言えるでしょう。

医学部

神戸は開港後、外国人居留地が設置されていた都市でもあります。海外からの渡航者が多いため、コレラ・ペスト・結核などの**感染症**の流入への対処や、**国際医療**が重要な課題となりました。つまり神戸大学の医学部も、「国際都市の公衆衛生」と結びつきが強いと言えるでしょう。感染症に関しても、ニュースにかかわる重要な分野と言えるでしょう。

阪神・淡路大震災が与えた影響

1995年の阪神・淡路大震災は、神戸大学にも非常に大きな影響を与えました。神戸という都市自体が、港湾・高速道路・鉄道・都市インフラの被害を受けたため、**都市防災・復興計画・リスク管理**、あるいは**災害医療**などへの関心が強まりました。ここにも「現実の都市問題と大学が近い」という神戸大学らしさがあります。もちろん、2011年の東日本大震災が、**東北大学**や周辺の大学に与えた影響も同様であり、これらの大学においても都市防災・復興計画・災害医療などの研究がさかんに行われています。

まとめ

神戸が国際的な港町であることで、神戸大学では「経済」「経営」「法」「国際関係」という実学的な文系学問と、「物流」「海運」「インフラ」「重化学工業」「災害」「医療」という理工系分野や、社会基盤づくりが有機的に繋がっています。また、このような背景から、優良企業への就職実績も非常に高い大学になっています。

こうしてみると、神戸大学は「日本近代経済を背負ってきた港町の大学」であり、「帝国大学」とは方向性が違いつつも、重要な総合大学だと言われる理由もわかると思います。

現実の受験作戦（神戸大学を目指すとしたら…関西の予備校の先生から聞いた情報です）

神戸大学は、**共通テストの比率が高めな大学**です（もちろん、学部によって違いはある）。このような大学だと、どこまで二次対策に力を入れるべきかの判断が難しいと言われています。共通テストのボーダーラインは約 80%なので、**3年8月の共通テスト模試では65%を目指しましょう**。特に英語と数学の早期完成が必要です。高校1年生の段階で数Ⅰ・Aを完成、高校2年生では英数国を共通テストレベルまで完成させたいですね。二次試験では、**英語が合否に大きく影響する**そうです。また、数学に関しては、**模試の活用**をおすすめされました。特に、**自己採点と実際に採点された答案との比較が重要**です。自分で部分点を何となく判断するのではなく、何が足りないと減点されるのか**（答えが合っていても減点される人がいますね）**、何をすれば、部分点がもらえるのか、ということをきちんと把握することで、たとえ満点をとれなくても、合格点まで答案を仕上げることができるようになるということでした。

冒頭でも書きましたが、神戸大学はやはり難関大学です。きちんとした準備をして受験したいものですね。

おまけ：旧制の官立大学や、その他の呼び名について

旧帝国大学（旧帝大）はよく知られていますが、他にも伝統ある大学のくくりがあります。ちなみに、**旧帝大**とはどこかわかりますね？なお、現在の「旧帝大」の大学は7つですが、実は「帝国大学」は9つありました。わかりますか？（クイズです）

以下、伝統校のくくりの例を紹介します。今ではあまり重視される分類ではないですが、大学について考えてみる際に、大学にはいろいろなルーツがあるんだな、と思ってもらえたらうれしいです。

「旧三商大」：旧制の商科大学をルーツとする大学

東京商科大学→**一橋大学** ／ 神戸商業大学→**神戸大学** ／ 大阪商科大学→**大阪公立大学**

「旧六医大」：旧制の医科大学をルーツとする大学

千葉医科大学→**千葉大学** ／ 金沢医科大学→**金沢大学** ／ 新潟医科大学→**新潟大学**

岡山医科大学→**岡山大学** ／ 長崎医科大学→**長崎大学** ／ 熊本医科大学→**熊本大学**

「ナンバースクール」をルーツとする大学

ナンバースクールというのは、1949年以前の旧制高等学校のうち、初期に作られた**第〇高等学校**と数字が振られたものを指します。これらは第八高等学校までありました。特に正式な呼称ではありませんが、伝統校のくくりの一つだと言えます。このナンバースクールは新制大学が整えられた際、旧帝国大学や国立大学に組み込まれていきました。

第一高等学校=**東京大学** ／ 第二高等学校=**東北大学** ／ 第三高等学校=**京都大学**

第四高等学校=**金沢大学** ／ 第五高等学校=**熊本大学** ／ 第六高等学校=**岡山大学**

第七高等学校造士館=**鹿児島大学** ／ 第八高等学校=**名古屋大学**